

子供の話題

子供が話す内容は、日常生活を知らないと、理解できない事がたくさんあります。

子供は一通り話せるようになると、電話に出たがりです。

私の母から電話がありました。跳んできて受話器を取るなり娘は、

「婆ちゃん。タコは怖いよー」

母はテレビでタコの怪物でも見たと思い、

「吸い付いて、墨かけられるから？」

娘はげんそうな顔をしています。実は昨日遊園地で、かなり回転の早いタコの遊戯物に乗ったのです。

子供は似た言葉を、よく間違えます。

私の妹の娘が、今度の旅行で泊まったホテルの話しを母にしていました。

「夜は（ホテル）でたくさん美味しい物を食べたんだよ。それでさ、……」

私は話しを聞きながら、（うちは一度も娘を旅行に連れて行ってないな）と思っていました。すると何処で話しを聞いていたのか、突然私の娘がやってきて一言、

「（ホテル）は夜光るんだよね！」

（ホテルとホテルか、まいったなー）

子供は簡単には理解できない事を、ときどき言います。

一番下の妹の息子を、私はいつも『まさき坊主』と呼んでいました。

ある日、娘の頭に出来た汗疹が、かゆいらしいので、

「頭を坊主にしてやろうか？：：：」

冗談を言うと、真剣な顔で娘が言いました。

「坊主は痛いから嫌だ！」

「何で痛いの？」

「坊主は噛むの」

娘の腕には、『まさき坊主』の歯形がくつきりと付いているのでした。

子供は突然の出来事後、突拍子もない事を言う事があります。

この夏、二才半の娘を川で遊ばせていたのですが、紙おむつをしたまま水に入れたので、おむつがいきなり水を吸い込み、流されて潜ってしまいました。慌てて引き揚げ背中を叩きながら、

「だいじょうぶか？　だいじょうぶか？」

私は一生懸命を揺すりました。すると、気を取り戻した娘は、

「川の中にお魚見えなかったよ」

数々の話題を提供してくれる子供も、大きくなると何も覚えてないものなのです。

私は高一の頃まで、祖父母の家にいくと気になっていた事がありました。それは襖の一枚に

大きな染みがあることでした。かなり高い処に一カ所だけあるのです。ある日私は、祖母に尋ねました。

「いつも気になっていたんだけど、あの染みは何なんだい？」
祖母は遠くを見るように言いました。

「あれはおまえが三つの頃、風呂から出て『高い高い』をしてもらっていた時、突然小便をした跡だよ」

